

# レインブーツ & スターリースカイ

齊藤脩 田村侑介 遠藤友咲 国松みなみ 笹木重聖 高山飛勇吾 鳩貝優太

担当教員：松原康介 TA：井尻俊介

## 1 背景と目的

1963年に、東京の過密対策と高水準の研究・教育を行うための拠点の形成を目的に、筑波研究学園都市の建設が閣議決定された。建設間もない学園都市について、「長ぐつと星空」という文献には、以下のような記述があった。建設間もない学園都市は道路が舗装されておらず、道は泥でぬかるみ、移動のために長ぐつは必須であった。一方、街には街灯が無く、太陽が沈めば辺りは闇に包まれ、夜空を見上げれば東京では決して見られない満天の星がきらめいていた。

本書には、完成間もない学園都市に移住した人々の驚くべき日常が記されている。例えば、「生ゴミは松林に掘った穴に埋めていた」、「夜は月明り以外は懐中電灯が頼り」という記述がある。現在この地に暮らす我々には想像もつかないことである。また、学園都市に移り住んだ「新住民」と、以前から周辺の集落で暮らしてきた「旧住民」の対立も描かれている。旧住民は「学園は、皆どこの馬の骨か分からない」、「浮草みたいなものだから」、「博士はバカセよ」などと新住民を揶揄して言った。

筑波研究学園都市が目指した都市像は何だったのか。今日、我々が足を踏みしめる筑波研究学園都市の誕生の陰に隠された、周辺住民たちの声なき声を探る。

## 2 調査手法

### 2-1 文献調査

「長ぐつと星空」に加え、筑波研究学園都市に関するさまざまな文献や、YouTubeの動画資料などから住民の声を集め、当時の状況を知る手がかりとした。

### 2-2 年表作成

文献調査の過程で、筑波研究学園都市に関する出来事をまとめた詳細な年表を作成し、筑波研究学園都市建設の歴史を把握した。

### 2-3 聞き取り調査

筑波研究学園都市の建設以前からこの地域に住む人々や、学園都市建設を機に筑波に越してきた人々へのインタビューを行った。本調査では、つくば市内各地区を実際に歩き、調査に応じてくださった街の人々にお話を伺った（図1）。聞き取りにあたって、①学園都市建設にあたっての心境の変化、②学園都市建設に伴っての地区の変化、③学園都市と地区の今に至るまでのつながり、④新旧住民の交流の4項目を話題として調査を進めた。



図1 取材場所

## 3 調査結果

### 3-1 筑波研究学園都市の成立と反対運動

学園都市の建設以前は、現在のつくば市にあたる地域は、数々の農村集落が存在し、6つの町村に分かれていた。学園都市建設前から、この6か町村に住む旧住民は、まだ都市整備や開発が進んでいない農村地域の「つくば」に新しい国家プロジェクトである学園都市ができることに期待もあったようだ。一方で、学園都市建設を機につくばに移転してくる新住民が多くいることや、既存の集落での生活が農地の

買収によって失われてしまうのではないか、という不安を持つ声もあり、反対運動も起きた。

### 3-2 錯綜する都市の理想

北条地区で住民インタビューを行った際に、『『均衡のとれた田園都市』というスローガンを聞いて、周辺と調和した都市ができると思っていた』という証言が得られた。この「田園都市」という言葉が住民に浸透していくまでに、どのようなことがあったのか。

1961年に筑波研究学園都市の建設が閣議決定された。計画では、「機能上必ずしも東京都の既成市街地に置くことを要しない官庁」を集団移転するものとした。加えて、研究施設を集約させて科学技術力の向上を目指した。これが、「研究学園都市」構想である。この構想においては、「田園都市」という文言は使われていない。

一方、その頃、茨城県は、農村地域の生活環境改善を目指す、「田園都市建設事業」という政策に取り組んでいた。政策名に「田園都市」とつくが、内容は農村地域のインフラ整備事業である。ここで、「田園都市論」の考案者である19世紀の都市計画家のハワードは、都市と農村の利点を組み合わせた職住近接型の都市を「田園都市」と称した。つまり、茨城県の「田園都市建設事業」では、ハワードの言う「田園都市」と異なる意味でこの言葉が使われていた。国の「研究学園都市」構想と県の「田園都市建設事業」、全く異なる二つの事業が同時にこの筑波地域で行われていたとは住民たちは思いもよらず、やがて二つの事業は混濁した。

学園都市建設の歴史において重要な人物が藤沢勘兵衛である。彼は栄村、桜村の村長を務め、学園都市構想において住民の束ね役を担った人物である。彼は自伝に、「私は国の筑波研究学園都市の構想の本質も、(中略)日本に近代的なまったく新しい発想の田園都市を創るものだ、ととらえたのです」と記している。藤沢を先頭に、『『田園都市』の建設』は住民たちの共通認識となっていく。

時を同じくして、学園都市のマスタープラン作成に携わった公団の都市計画家である土肥博至はマス

タープランにハワードの田園都市の思想を取り入れる。藤沢はこれを見て「建設されるのは田園都市である」という認識を確たるものにしていく。

1970年に筑波研究学園都市建設法が成立し、「均衡のとれた田園都市」という文言が初めて取り入れられる。住民たちは新都市への希望を「田園都市」という言葉に託し、それが正式なスローガンになった瞬間であった。

表 1 筑波研究学園都市に関する年表

| 年    | 出来事                         |
|------|-----------------------------|
| 1961 | 研究学園都市の建設を閣議決定              |
| 1963 | 研究学園都市を筑波に建設することを閣議決定       |
| 1970 | 筑波研究学園建設法の成立                |
| 1971 | 研究学園建設にあたっての用地買収がほぼ終了       |
| 1972 | 竹園地区の公務員宿舎に入居開始             |
| 〃    | 移転機関第1号である無機材料研究所の業務開始      |
| 1973 | 筑波大学開学                      |
| 1979 | 施設が概成し、都市の基礎機能や幹線道路がほぼ完成    |
| 1980 | 当初予定された43機関の移転の完了、研究学園地区の概成 |
| 1981 | 常磐道 柏-谷田部 間開通               |
| 1985 | 常磐道が東京と直結                   |
| 〃    | 筑波科学万博の開催                   |
| 1987 | 筑波鉄道廃止                      |
| 〃    | 大穂町・豊里町・谷田部町・桜村が合併し、つくば市発足  |
| 1988 | 筑波町がつくば市に編入                 |
| 1999 | 新住宅市街地開発や区画整理の終了            |
| 2002 | 茎崎町がつくば市に編入                 |
| 2005 | つくばエクスプレス開業                 |
| 2006 | 圏央道 つくば牛久-阿見東 間開通           |

### 3-3 「田園都市」の現実

こうして学園都市が発展していく一方で、周辺地域は衰退していった。北条地区の住民は、「まちが開発から無視されている感覚を持った」、「周辺地域は発展に置いていかれた感覚がある」と語った。また、葛城地区の住民は「開発の対象でない地域との差が広がりさびれた地域と『都会化』した地域の差を感じることもあった」と語った。学園都市に新しく越してきた人々も、予想と違う都市での生活に戸惑っていた。長ぐつと星空には、「知性と科学の街、世界に誇る日本の研究学園都市ならば、図書館が建設される

のは時間の問題だと思っていたのです。あれから、もう八年経ちました。その間に次々と立派な施設が建設され、街はすっかり様変わりし、長靴も必要でなくなりましたが、依然、公共図書館はありません」という証言もある。

このように、開発段階の学園都市では都市機能が十分でなく、新住民の都市的な生活への期待は叶わなかった。現実の研究学園都市は、住民たちが期待するものとかけ離れたものであった。

### 3-4 物理的な「分断」

学園都市周辺の住民へのインタビューでは、「学園都市ができたことで生活がかえって不便になった」という声が聞かれた。これは、都市ができることで生活が豊かになるという自然な発想とは矛盾する。何が起こったのだろうか。

苅間集落の住民からは、「学園都市建設に伴う道路開発により、従来の『線』が寸断され、行き来がしにくくなった」という声を聞いた。学園都市建設の前、苅間は東西と南北を結ぶ道路が交わる場所で、大曽根、北条、谷田部などのさまざまな集落と直接行き来をすることができた。しかし、学園都市の建設に伴って、北、南、東に向かう道路は苅間集落の近くで学園都市内部に取り込まれ、消滅していった。

学園都市建設以前の筑波地域は、各集落とそれをつなぐ街道によって線で結ばれた経済圏が形成されていた。学園都市の建設に伴って建設された新道は、学園都市から土浦や牛久といった隣町への移動を容易にした一方、古くから学園都市周辺に位置した集落どうしの交流を妨げた。また、学園都市の建設によって車の移動に適した道路ばかりになり、徒歩での移動はかえって不便になったという声もあった。昔からの生活道路が新道によって分断されている箇所は数多く存在する。新道の建設が、かつてから存在した人々の移動の妨げになってしまったのだ。

### 3-5 心理的な「距離」

旧住民の中には学園都市のことを「学園」と呼び、自身の住む地域とは区別している人がある。そして栗原地区の方々へのインタビューでは、その多くが

「学園建設はあまり関係がなかった」という感想を持っていた。筑波大学からわずか2 km ほどの場所に位置し、自身も大学へ働きに出ていたにも関わらず、である。また、文献には、「ただの外人だっで見なかったのに、この頃は外国の首相まで続々お出でになり」という記述もあった。そしてその「自分たちとはかけ離れている」という感覚は、町のみならずそこに住む新住民に対してもあったようだ。旧住民は「我々、インディアンは……」という自虐的な物言いをしたり、新住民らとの言葉の違いから、彼らとの交流に抵抗を感じたりしていた。

### 3-6 新旧住民の交流

文献調査から、住民と旧住民の桜村の朝市での交流の様子がわかった。当時の新住民は土浦へ買い物に行っていたが、そのうちに農家で採れた農作物を学園で売る話が出る。そして農家が、農園で取れた野菜を学園の住宅街に並べた。ここから桜村での朝市が始まった。この朝市は新旧住民を結ぶものとなった。また、新住民が農作業や子豚の飼育を手伝っていたという記録もある。新旧住民の子供が通った九重、葛城小学校では子供たちが大人よりも早く打ち解けていった事が記録されている。また、地域住民へのインタビューでは、新住民と旧住民は互に関心を持っていて断絶感はなく、まつりやPTAなどが自然と交流が生まれる場となっていたほか、筑波大学の教授が行う稽古・講座が住民たちの交流の機会になっていたという話もあった。

朝市での交流や、まつりやPTAの活動、さらには稽古や講座を通じた交流の中に、学園都市の住民を新たな仲間として受け入れようとする旧住民、そして筑波地域を新たなふるさととして、馴染もうとする新住民の努力をうかがうことができる。

## 4 考察

様々な主体の思惑が交錯することで肥大した学園都市の「理想」と、実際に作られた「学園都市」はあまりにもかけ離れていた。また、学園都市成立の裏側には、筑波地域に住まう人々のたゆまぬ努力があっ

た。学園都市に移住した住民はこの地を新たなふるさととし、地域に馴染むために様々な活動を自分たちで興した。周辺に古くから住まう住民もまた、慣れない土地で奮起する彼らを見て、新たな住民として受け入れることを選んだ。学園都市を作ったのは、住民たちであった。

星空のように高く掲げられた都市の輝く理想に対して、現実という足元は重く冷たい泥でぬかるむ。それでも人々は長ぐつを履いて歩いていく。「長ぐつと星空」、それは筑波研究学園都市が辿った歴史の記憶、そのものである。

建設から半世紀以上の歳月を経た都市は今も、「まちをつくる」ことの本当の意味を我々に問いかけている。

## 参考文献

- [1] 筑波研究学園都市の生活を記録する会、『長ぐつと星空 第一部』,筑波書林,1981
- [2] 筑波研究学園都市の生活を記録する会、『長ぐつと星空 第二部』,筑波書林,1981
- [3] 筑波研究学園都市の生活を記録する会、『長ぐつと星空 第三部』,筑波書林,1981
- [4] 筑波研究学園都市の生活を記録する会、『続・長ぐつと星空上』,筑波書林,1985
- [5] 筑波研究学園都市の生活を記録する会、『続・長ぐつと星空中』,筑波書林,1985
- [6] 筑波研究学園都市の生活を記録する会、『続・長ぐつと星空下』,筑波書林,1985
- [7] 三井康壽,『筑波研究学園都市論』,鹿島出版会,2015
- [8] 久保田治夫,『筑波研究学園都市』,筑波書林,1981
- [9] 学園都市問題研究会,『筑波研究学園都市』,大月書店,1985
- [10] 早川公,『まちづくりのエスノグラフィ:《つくば》を織り合わせる人類学的実践』,春風社,2018
- [11] 安部奎輔,『藤沢勘兵衛と研究学園都市の概成』,STEP,1995
- [12] 堀口純子,『筑波研究学園都市における新旧住民のアクセント』,2011
- [13] NPO 法人つくば建築研究会,『つくば建築フォトファイル』,NPO 法人つくば建築研究会,2005
- [14] 筑波研究学園都市施設記録写真集刊行委員会,『写真集筑波研究学園都市:建築の記録』,日本建築学会,1982
- [15] 常陽新聞社企画室,『つくば 30 年 101 人の証言 つくば実験/情熱劇場』,1996
- [16] 藤沢勘兵衛,『勘翁自傳: 八十五歳のうは言』,勘翁自傳刊行委員会,1990,
- [17] 磯崎新,『建築のパフォーマンス: <つくばセンタービル>論争』,PARCO 出版局,1987
- [18] 饗庭伸,『平成都市計画史: 転換期の 30 年間が残したもの・受け継ぐもの』,花伝社,2021
- [19] "住宅都市整備公団,日本都市建築学会",『文化は都市を刺激する〈上〉』,プロセスアーキテクチャ,1995
- [20] "住宅都市整備公団,日本都市建築学会",『文化は都市を刺激

する〈下〉』,プロセスアーキテクチャ,1996

- [21] ACCS アーカイブ(研究・学園都市を作る)。(アクセス日: 12 月 1 日). 参照先: <https://www.youtube.com/watch?v=r7rsQyGQVyc>
- [22] ACCS アーカイブ(研究学園都市今昔 25 年)。(アクセス日: 12 月 1 日). 参照先: <https://www.youtube.com/watch?v=1QIDiH7xhcg&t=293s>
- [23] ACCS スペシャル 昭和 41 年~47 年頃につくば。(アクセス日: 12 月 1 日). 参照先: <https://www.youtube.com/watch?v=c6yG5jYEx9g>
- [24] 茨城県映画『EXPO'85 科学の祭典』(1985 年(昭和 60 年度)制作) つくば科学万博 '85。(アクセス日: 12 月 1 日). 参照先: <https://www.youtube.com/watch?v=4lxq9s2iDr0>
- [25] 茨城県映画『未来をひらく都市ー筑波研究学園都市ー』(1981 年(昭和 56 年度)制作) ▼。(アクセス日: 12 月 1 日). 参照先: <https://www.youtube.com/watch?v=H8GEAPcXHvY>
- [26] 茨城県下の田園都市運動について。(日付不明). 参照先: [https://www.jstage.jst.go.jp/article/arp1982/6/2/6\\_2\\_42/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/arp1982/6/2/6_2_42/_article/-char/ja/)
- [27] 研究学園都市の歴史にみる都市づくりのあり方。(日付不明). 参照先: <https://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/iten/onlinelecture/lec128.html>
- [28] 国土交通省マスタープランについて。(日付不明). 参照先: <https://www.mlit.go.jp/crd/daisei/tsukuba/data/001.html>
- [29] 筑波研究学園都市。(アクセス日: 11 月 14 日). 参照先: <https://www.mlit.go.jp/crd/daisei/tsukuba/index.html>
- [30] 筑波研究学園都市 年表。(日付不明). 参照先: <https://www.tsukuba-housing.org/thistory/nenpyo/nenpyo.pdf>
- [31] 筑波研究学園都市における住民の生活と意識の変容について。(アクセス日: 12 月 5 日). 参照先: [https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/23/0/23\\_337/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/23/0/23_337/_article/-char/ja)
- [32] 筑波研究学園都市の景観変化の記録(1980、1991、2006、2021)。(日付不明). 参照先: <https://www.nies.go.jp/social/keikan/index.html>
- [33] 筑波研究学園都市の現状と諸課題にみる都市形成過程上の問題。(日付不明). 参照先: <http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0815.htm>
- [34] 筑波鉄道 廃線後 比較写真。(日付不明). 参照先: <https://red50kei.skr.jp/tukuba/tukuba-hosoku.html>
- [35] 筑波鉄道+ケーブルカー。(アクセス日: 11 月 15 日). 参照先: <http://tsushima-keibendo.a.la9.jp/tsukuba/tsukuba.html>
- [36] 農村の生活環境整備と集落——茨城県における田園都市建設事業を事例として——。(日付不明). 参照先: [https://kokushikan.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=6907&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://kokushikan.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=6907&item_no=1&page_id=13&block_id=21)
- [37] 北条とつくば道 郷愁の 1980 年代の町なみ 1。(アクセス日: 10 月 26 日). 参照先: [https://www.youtube.com/watch?v=jOjTD7J1\\_4c](https://www.youtube.com/watch?v=jOjTD7J1_4c)
- [38] 北条ふれあい館。(アクセス日: 10 月 25 日). 参照先: <http://www.tsukuba-hojo.jp/06fureaikan/index.html>
- [39] 目で見るとつくばの歴史。(アクセス日: 11 月 20 日). 参照先: <https://www.cross.or.jp/pdf/TsukubanoRekishu/Medemiru-Tsukubanougoki.pdf>